

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度(令和2年度)		科目名	卒業制作1	
科目基礎情報							
開設学科	ITスペシャリスト科		コース名	システム専攻		開設期	前期
対象年次	4年次		科目区分	必修		時間数	270時間
単位数	9単位		開講時間	月曜、火曜、金曜の1時限目～		授業形態	実習
教科書/教材	各グループごとに必要に応じて書籍を使用して良い。インターネットの情報や図書館の書籍も積極的に活用すること。						
担当教員情報							
担当教員 黛宏明				実務経験の有無・職種		有・システムエンジニア	
学習目的							
これまで身につけてきた知識と技術を活用し、グループでの制作に取り組む。この制作活動を通して、社会に出て仕事をする上で必要なコミュニケーション能力を実践的に身に付けていくこと、実装力を養い仕事に活かせる技術力にしていこと、IT分野の技術動向を自分たちで調べ開拓する力を得ること、プロジェクトに対し適切な役割分担をし、プロジェクトを協力して推進する能力やマネジメントできる能力を育むことなどを目的とする。							
到達目標							
仕事をする上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、授業で学んできたことを仕事に活かせる技術力にし、IT分野の技術動向を知り、自分たちで活用できるようになり、さらにプロジェクトマネジメント能力またはプロジェクトに適切に協力して推進させることができるようになることを目標とする。							
教育方法等							
授業概要	卒業制作2の前段の科目である。卒業制作2の実施に先駆け、グループ作成とグループで取り組む制作物を決める。また、制作物については、機材調達や制作期間、技術的要素の観点から、実現性を考慮し、決定する。グループ作業では、タスクの洗い出し・役割分担・スケジュールリングを行う。授業の最後に、中間発表を行う。(最終的な発表は、卒業制作2で行う)						
注意点	卒業制作は、必ず2名以上のグループで行うこととする。学校所有の機材などが制作に必要な場合は申請により使用することもできるが、他の授業での使用が優先される。計画と分担をしっかりと決めて協力して進めること、遅刻や欠席をしないこと、提出物は期日を守り必ず提出すること。評価は基本的にはグループ単位で行うので、グループ全体で責任を持って活動すること。尚、授業時数の4分の3以上出席しない者は評価対象としない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	50%	制作物(制作内容、展示パネル、発表資料、ドキュメントを含む)を総合的に評価する				
	小テスト	0%					
	レポート	20%	授業終了時に提出する進捗報告書の記載内容および提出状況を評価する				
	成果発表(口頭・実技)	20%	中間発表について評価する				
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する					
授業計画(1回～15回) 1回(6)時間 ※45分を1時間とする							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	オリエンテーション			卒業制作1の実施趣旨、目標、進め方、および評価方法を理解する			
2回	制作物の検討－個別－(1)			制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術を一人ひとり列挙する			
3回	制作物の検討－個別－(2)			制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術を一人ひとり絞る			
4回	発表(1)			制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術について一人ひとり発表する			
5回	発表(2)			制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術について一人ひとり発表する			
6回	グループ作成			グループが決定する			
7回	制作物の検討－グループ－(1)			制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術を列挙する			
8回	制作物の検討－グループ－(2)			具体的な制作物について、2～3候補を挙げる			
9回	実現性確認(1)			調達機材や、制作期間や、技術要素などの観点から、実現性があるかどうかを調べる			
10回	実現性確認(2)			調達機材や、制作期間や、技術要素などの観点から、実現性があるかどうかを調べる			
11回	実現性確認(3)			調達機材や、制作期間や、技術要素などの観点から、実現性があるかどうかを調べる			
12回	実現性確認(4)			調達機材や、制作期間や、技術要素などの観点から、実現性があるかどうかを調べる			
13回	実現性確認(5)			実現性確認の結果を踏まえ、制作物を1つに決定する			
14回	計画(1)			中間発表までの計画が作成できる			
15回	計画(2)			制作物と計画について担当教員の承認をうける			
授業計画(16回～30回)							
回	授業内容			各回の到達目標			
16回	計画実施(1)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
17回	計画実施(2)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
18回	計画実施(3)			計画作業に加え、進捗会議を行い、プロジェクトの状況を把握し、必要に応じ対策を講じる			
19回	計画実施(4)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
20回	計画実施(5)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
21回	計画実施(6)			計画作業に加え、進捗会議を行い、プロジェクトの状況を把握し、必要に応じ対策を講じる			
22回	計画実施(7)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
23回	計画実施(8)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
24回	計画実施(9)			計画作業に加え、進捗会議を行い、プロジェクトの状況を把握し、必要に応じ対策を講じる			
25回	計画実施(10)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
26回	計画実施(11)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
27回	計画実施(12)			計画作業に加え、進捗会議を行い、プロジェクトの状況を把握し、必要に応じ対策を講じる			
28回	計画実施(13)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
29回	計画実施(14)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
30回	計画実施(15)			計画作業に加え、進捗会議を行い、プロジェクトの状況を把握し、必要に応じ対策を講じる			
授業計画(31回～45回)							
回	授業内容			各回の到達目標			
31回	計画実施(16)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
32回	計画実施(17)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
33回	計画実施(18)			計画作業に加え、進捗会議を行い、プロジェクトの状況を把握し、必要に応じ対策を講じる			
34回	計画実施(19)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
35回	計画実施(20)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
36回	計画実施(21)			計画作業に加え、進捗会議を行い、プロジェクトの状況を把握し、必要に応じ対策を講じる			
37回	計画実施(22)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
38回	計画実施(23)			計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットをだす			
39回	中間発表準備(1)			プレゼン資料やPVの作成、デモの準備をし、リハーサルを行う			
40回	中間発表準備(2)			プレゼン資料やPVの作成、デモの準備をし、リハーサルを行う			
41回	中間発表準備(3)			プレゼン資料やPVの作成、デモの準備をし、リハーサルを行う			
42回	中間発表(1)			グループ毎に制作物の中間発表を行う			
43回	中間発表(2)			グループ毎に制作物の中間発表を行う			
44回	成果物の整理・集約・提出(1)			成果物の整理・集約を行う			
45回	成果物の整理・集約・提出(2)			成果物を提出を終える			